

平成 28 年度事業計画書

目 次

平成28年度事業計画書

○平成28年度基本方針 ······ 1

○平成28年度事業体系

公益目的事業1

I 農地集積推進事業 ······ 2

II 畜産・農用地等基盤整備事業 ······ 4

公益目的事業2

III 農業後継者育成確保事業 ······ 6

IV 6次産業総合推進事業 ······ 9

V 農村振興事業 ······ 10

VI 食と農の理解促進事業 ······ 12

VII とちぎ花センター管理運営等事業 ······ 14

VIII なかがわ水遊園管理運営等事業 ······ 16

収益事業 ······ 18

平成28年度事業計画書

○ 平成28年度基本方針

当公社は公益財団法人として本県農業の更なる発展と農村地域の振興を図るため、「平成28年度事業体系」に掲げた事業を実施していく。特に創設3年目を迎えた「農地中間管理事業」においては更なる体制の強化を図り、農地の中間的受け皿となる農地中間管理機構としての役割を發揮し、担い手への農地の集積・集約化を加速的に推進していく。

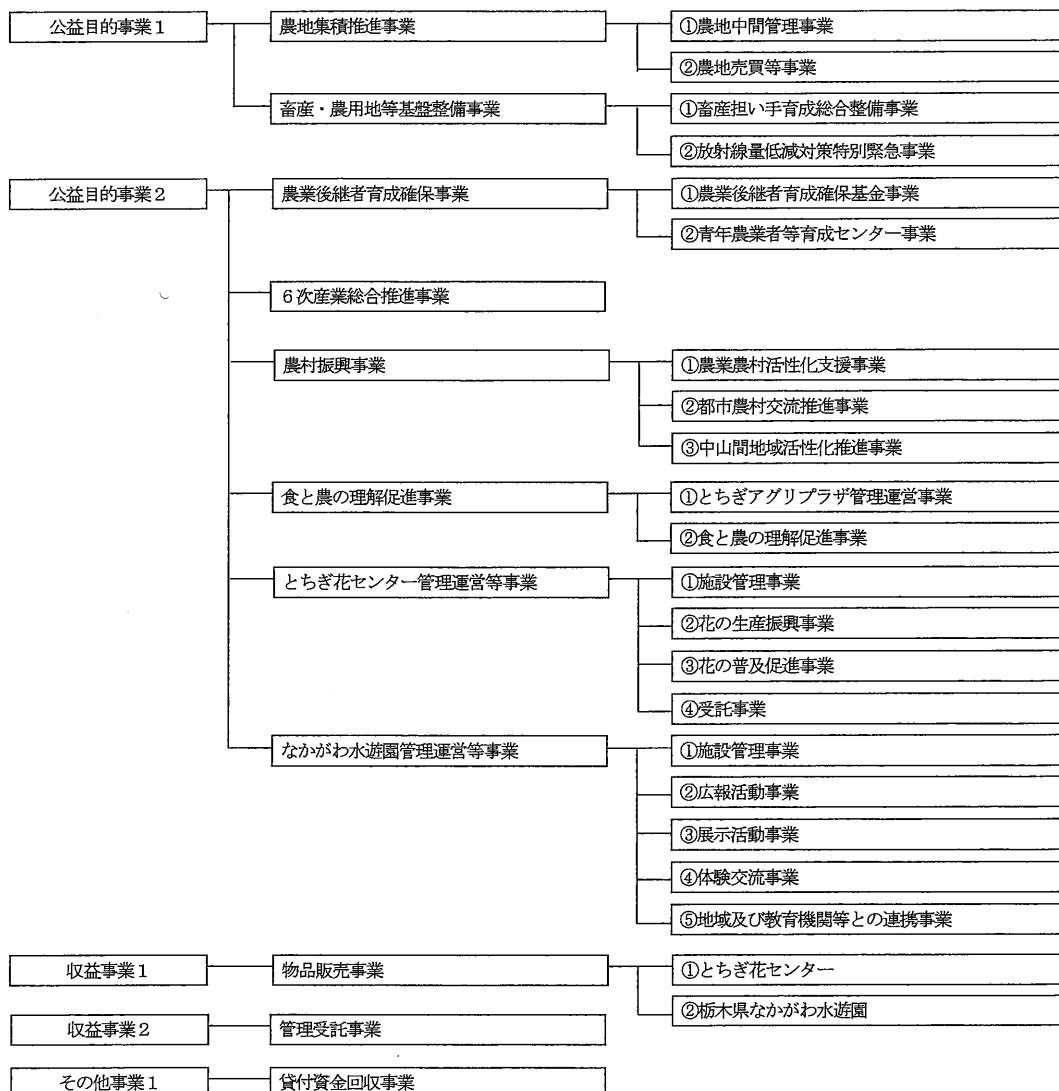
また、全国有数の畜産県である本県畜産業の更なる発展に寄与する畜産担い手総合整備事業を着実に推進する。

さらに、本県農業の担い手となる新規就農者の育成、確保対策である「農業後継者育成確保事業」や「農業の6次産業化」、「農村活性化支援事業」などに積極的に取り組んでいく。

一方、指定管理施設である「とちぎ花センター」「栃木県なかがわ水遊園」においては地域活性化の拠点施設としての役割を發揮し地域の発展に貢献していくとともに、魅力ある運営を行っていく。

これらの事業を基盤として公社に蓄積した知識や情報及び連携機能を活かし、農業者をはじめ関係機関・団体等と協力を図りながら事業の円滑な実施に努め目的の実現を図っていく。

○ 平成28年度事業体系



I 農地集積推進事業（公1事業）

【予算額：1,220,915千円】

農用地等の利用の効率化及び高度化を促進するため、県・市町・農業委員会・農地利用集積円滑化団体等との連携のもとに、社会・経済情勢の変化や農用地移動の動向等に即しつつ、農地中間管理事業及び農地売買等事業を実施する。

1 農地中間管理事業 (公1・1 農地利用集積に関する事業)

農地中間管理機構として農地を借受け、扱い手に集約して貸し付ける事業及び扱い手に貸し付けるまでの間、農地として管理をする事業を実施し、扱い手への農地集積・集約化を図る。

項目	事業内容
1 農地の貸借	<p>目標面積 借入（農地中間管理権設定） 5,000ha 貸付（農用地利用配分計画） 5,000ha ※平成27年度 実績見込み 借入 1,470ha 貸付 1,385ha</p>
2 重点支援	<ul style="list-style-type: none"> 重点支援地域を設置し（25市町47地区）、地域におけるモデル的な取組を支援する。 集落営農組織の法人化や個別扱い手による地域ぐるみでの農地集積、集約化の取組を支援する。 <p>※平成27年度の取組み実績 16地域</p>
3 業務委託の実施	<p>各市町・各市町農地利用集積円滑化団体・各農業組合に相談窓口の設置や農地状況調査、借受け・貸付け条件の確認・手続き等の業務委託を実施し、事業の円滑な推進を図る。</p> <p>※平成27年度 業務委託数 51機関（申合せ含） 窓口設置 61機関</p>
4 借受希望者の公募	<p>農地の受け手となる扱い手（借受希望者）の公募を実施する。</p> <p>※平成27年1月末現在 希望者数 2,049名 希望面積 5,901ha</p>
5 事業の啓発・普及	<ol style="list-style-type: none"> 重点推進月間（5月・8月・11月）を設置し、農業者等への啓発・普及を図る。 新聞広告、リーフレット等の広報活動により、農業者等への周知、理解促進を図る。 先進事例集を作成し、取組の拡大を図る。 企業の新規参入等新たな扱い手への支援を図る。 農用地利用集積連携会議や研修会等を実施し、農地集積の円滑な推進及び関係機関団体との情報の共有化等を図る。

2 農地売買等事業 (公1・1 農地利用集積に関する事業)

規模縮小を志向する農家等から農用地を買入れ、規模拡大を志向する認定農業者等に売渡す事業を実施し、農用地の利用集積を図る。

事業名		件 数	面積 (ha)	金額 (千円)
1 買入	農地売買支援事業	216	90.0	540,000
	公社営農地売買支援事業	50	20.0	120,000
	計	266	110.0	660,000
2 売渡	農地売買支援事業	248	112.5	705,379
	公社営農地売買支援事業	49	19.5	120,965
	計	297	132.0	826,344

II 畜産・農用地等基盤整備事業（公1事業）

【予算額：573,979千円】

生産性の高い農業経営の確立を図るため、県・市町等の関係機関や農業団体と連携し、畜産生産基盤の整備や環境整備等に関する次の事業を実施する。

【総括表】

(単位：千円)

No	事業名	地区名	事業期間	H28事業費
1	畜産担い手育成総合整備事業	①日光高原	H25～H28	365,200
		②栃木塩那	H27～H30	132,400
		③大田原・那須	H28～H32	18,000
		小計		515,600
2	放射線量低減対策特別緊急事業	日光市他	H23～H28	6,819
合 計				522,419

1 畜産担い手育成総合整備事業 (公1・2 畜産・農用地等基盤整備事業)

畜産の产地として今後安定的な発展が期待される地域において、生産性の高い経営体の育成とこれを核とした畜産主産地の再編整備を進め、畜産の安定的な発展を図るために、草地・畜舎・家畜排泄物処理施設等の整備事業を実施する。

また、次年度新規着手を計画している那須塩原地区において、事業実施が円滑に行われるよう県、市、事業参加者等と十分な調整を図っていく。

No	地区名	予算区分	施工箇所	事業費 (千円)	主な事業内容
1	日光高原 (H25～H28)	H27 繰越	日光市	15,600	草地造成
		H28	日光市 鹿沼市	349,600	草地造成・整備 牛舎、堆肥舎等の整備 農機具導入
2	栃木塩那 (H27～H30)	H28	さくら市 那須烏山市 那珂川町	132,400	草地造成・整備 牛舎、堆肥舎等の整備
3	大田原・那須 (H28～H32)	H28	大田原市 那須町	18,000	測量試験費
合 計				515,600	

2 放射線量低減対策特別緊急事業 (公1・2 畜産・農用地等基盤整備事業)

東日本大震災による原子力災害により汚染された公共牧場等の永年牧草吸收抑制対策及び指定廃棄物一時保管の設計・監理業務を受託し、放射線量の低減を図る。

区分 (対象)	施工箇所	事業費 (千円)	主な事業内容
環境省事業 (牧草等放射性指定廃棄物)	那須塩原市	3,240	指定廃棄物の一時保管場所改修工事の設計・施工監理
農水省事業 (県内公共牧場)	日光市 那須町	3,579	永年牧草地の反転耕・深耕等による吸收抑制対策工事の設計・施工監理
合計		6,819	

III 農業後継者育成確保事業（公2事業）

【予算額：173,832千円】

次代を担う優れた青年農業者等の育成・確保を図るため、県及び関係機関・団体等との連携のもと、農業後継者育成確保基金事業並びに青年農業者等育成センター事業を実施する。

1 農業後継者育成確保基金事業 (公2・1 自主事業)

青少年の就農促進と青年農業者の育成を図るため、県・市町・農業団体・農業者等の協力で造成された農業後継者育成基金の運用益と一部基金の取り崩しにより、次の事業を実施する。

(1)国際化対応サポート事業

国際化に対応できる経営感覚に優れた農業者を育成するため、就農希望の青少年（高校生）や青年農業者に対する海外派遣さらには長期研修を支援する。

事業名	事業内容
1. 農業学生海外研修支援事業	国際化に対応可能な青年農業者を確保するため、農業高校生の海外研修事業を支援する。 *H28年度目標：5名（H27年度実績：ニュージーランド 3名）
2. 海外長期研修支援事業	農業先進国で優れた技術等を習得するため、概ね1年以上の農業研修を行う青年を支援する。 *H28年度目標：2名（H27年度実績：アメリカ 2名）
3. 海外短期派遣研修事業	国際化に対応できる経営感覚に優れた農業者を育成するため、農業先進国に研修団を派遣し、青年農業者の資質向上を図る。 *H28年度目標：14名（H27年度実績：ヨーロッパ 14名）

(2)担い手チャレンジ支援事業

青年農業者等を対象に、農業及び農家生活等に関する知識・技術の向上を図るための研究及びプロジェクト活動を支援する。

事業名	事業内容
経営発展活動支援事業	青年農業者又は青年農業者組織が行う技術開発等の課題解決のための調査・研究活動を支援する。 *H28年度目標：4件（H27年度実績：2件）

(3)組織活動サポート事業

青年農業者の仲間づくりや自己研鑽を図るため、自主的に取り組んでいる組織活動を支援する。

事業名	事業内容
1. 組織活動支援事業	青年農業者自らが組織し、積極的な活動を行っている組織を支援する。 *H28年度目標：県4HC協議会（H27年度実績：県4HC協議会）
2. 青年農業者地域貢献支援事業	青年農業者の組織が行う、地域に対する奉仕活動や活性化活動、子供たちへの農業の理解促進活動を支援する。 *H28年度目標：10市町4HC協議会（H27年度実績：8市町4HC協議会）

3. 全国技術交流派遣事業	全国組織等が行う研修会へ青年農業者を派遣し、県外青年農業者との交流を行い、技術の向上及び経営者としての資質の向上を図る。 *H28 年度目標：20名全国等参加 (H27 年度実績：5名全国参加見込み及び関東ブロック参加者 24名)
---------------	---

(4)いきいき農業・農村情報発信事業

青年農業者が自信と誇りを持って農業に取り組むことができるよう、消費者との交流を通して、農業・農村の理解促進を図るための活動を支援する。

事業名	事業内容
青年農業者と消費者の交流促進支援事業	県内の青年農業者が一堂に会し、消費者に対し農業・農村の素晴らしさ等の情報を発信する活動を支援する。 *H28 年度目標：来場者数 5,000 人 (H27 年度実績：来場者数 5,165 人)

2 青年農業者等育成センター事業 (公2・1 自主事業)

本県農業の担い手となる幅広い就農希望者に対し、就農促進啓発、就農相談活動並びに就農支援情報（農地情報等）の収集、蓄積、情報提供を行うとともに、就農を目指す青年が研修を受ける際に給付金を助成する。

(1)就農支援事業

本県農業の担い手となる幅広い就農希望者を対象に、就農促進啓発や就農相談活動等を実施するとともに、就農支援情報（農地情報等）の収集、蓄積、情報提供を行い、就農促進を図る。

事業名	事業内容
1. 就農促進啓発事業	新規就農希望者に対する就農促進啓発を行うとともに就農相談活動、新規就農フォーラム、現地セミナー等を実施する。 *H28 年度目標：相談件数 350 件 (H27 年度実績：相談件数 390 人見込) *H28 年度目標：相談会実施数 12 回 (H27 年度実績：相談会実施数 12 回) ・新規就農フォーラム～ H28 年度目標：100 人 (H27 年度実績：81 人) ・現地セミナー～ H28 年度目標：25 人 (H27 年度実績：26 人)
2. 就農サポート事業	就農支援情報（農地情報等）の収集、蓄積、並びに情報提供を行う。 *H28 年度目標：就農情報数 50 件 (H27 年度実績：就農情報数 44 件)

(2)青年就農給付金事業（準備型）

青年の就農意欲の喚起を図るために、就農前の研修期間（2年以内）に年間 150 万円を給付し、円滑な就農を促進する。

事業名	事業内容
青年就農給付金事業（準備型）	就農に向けて県農業大学校などの教育機関や先進農家等において研修を受ける者に対して給付金を給付する。 *H28 年度目標：給付対象者数 100 人（新規 78 人、継続 22 人） (H27 年度実績：給付対象者 41 人)

(3) とちぎでいちごを始めようプロジェクト事業

本県の新たないちご生産者を確保するため、県内・外から幅広くいちご就農希望者を呼び込むとともに、就農啓発や就農相談活動・情報発信等を通して、就農・定着促進を図る。

事業名	事業内容
とちぎでいちごを始めよう キャンペーン事業	全国に向けた広告、ホームページ等による募集案内や、東京での就農相談会における特設ブースの設置等により、広く就農希望者を募る。 *H28 年度目標：相談会実施数 3 回 (H27 年度実績：相談会実施数 3 回)

IV 6次産業総合推進事業（公2事業）

【予算額：15,700千円】

農業者が農業・農村に存在する豊かな「地域資源」を活用し、農業者による生産・加工・販売の一体化による6次産業（1次産業×2次産業×3次産業）の創出と異業種との連携による新たなビジネスの創出を促し、農業・農村の活性化を図る取組を支援する。

1 6次産業総合推進事業 (公2・2 受託事業)

農業の6次産業化を推進するため6次産業化サポートセンターを設置し、実践アドバイザーを派遣して総合的なサポートを行うとともに、研修会等を開催する。

項目	事業内容
1. アドバイザーの派遣	6次産業化実践アドバイザーを派遣し、農業者等が行なう生産から商品開発、事業化までを一貫して指導するとともに、総合化事業計画認定者のフォーローアップを行う。 ・アドバイザー派遣計画：延べ80回 ・総合化事業計画認定目標件数：7件 (平成28年2月末現在の認定数：39件)
2. 6次産業化への取組支援	6次産業化を推進するため、農業者等からの相談窓口を設置するとともに、推進会議の開催や情報発信、研修会等を開催する。 ・農業者等から相談見込件数：100件
3. 6次産業化を実践する人材育成	新たな農業を創造できる優れた経営感覚の農業者等を育成するため、6次産業化実践塾を開催する。 ・募集人員：20名 ・開催回数：6回（月1回）
4. 販路開拓の支援	新商品等の販路拡大の取組を推進するため、商談会等への出展を支援する。

V 農村振興事業（公2事業）

【予算額：10,974千円】

農業・農村の活性化を図るため地域農業振興アドバイザーの派遣を行うとともに、若い世代に農業が持つ多面的機能等の理解促進を図るために各種コンクールの開催、並びに情報の収集・提供等を行う。

また、農村地域が持つ自然環境や伝統文化、多彩な農産物などの豊かな地域資源を生かしながら、創意と工夫による都市と農村の交流、中山間地域における農地保全活動などを支援し、魅力と活力のある農業・農村づくりを推進する。

1 農業農村活性化支援事業 (公2・1 自主事業)

農村地域の活性化を図るために課題解決に向けて専門家を派遣して指導・助言を行い、さらに、若い世代の年代に応じた農業・農村への理解と関心を深めるために各種コンクールを開催する。

また、農業・農村の活性化等の取組を「とちぎ発元気農業」で情報発信する。

項目	事業内容
1. 地域活性化の取組支援	農業経営・流通・加工・交流等の専門的知識を有する地域農業振興アドバイザーの派遣や研修会の開催により、農業農村の活性化を支援する。 ・アドバイザー派遣計画：5件
2. 農業農村への理解促進	農業農村児童画コンクール、美しいとちぎのむら写真コンテスト等を開催するとともに、優秀作品の展示を行ない農業農村の理解を深める。 う。 ・コンクール開催回数 児童画コンクール：1回 写真コンテスト（中・高生対象）：1回
3. 情報の収集・提供	「とちぎ発元気農業」の発行及び事業推進に必要な各種情報の収集提供を行う。 ・発行回数：2回

2 都市農村交流推進事業 (公2・1 自主事業)

県内の都市農村交流施設等では、気軽に農業・農村体験を行うことができる施設や体制の整備を望む声が多いことから、これらの実現に向け以下の取組を行う。

事業名	事業内容
都市農村交流施設活性化推進事業	(1) 都市農村交流施設状況調査 27年度における県内の都市農村交流施設状況を調査・集計し、その結果を基に特徴的な取組状況をとりまとめ、他施設の活性化を促進する。 (2) 都市農村交流施設活性化推進員指導・助言活動 推進員により以下の取組への指導・助言活動を行う。 ア) 農業・農村体験メニューの作成及び拡大 イ) 都市農村交流施設活性化に関する啓発資料作成 ウ) 直売所による地域情報の紹介機能強化 エ) 地域の特徴を捉えた商品開発と販路拡大

3 中山間地域活性化推進事業（とちぎ夢大地応援団推進事業） (公2・2 受託事業)

中山間地域の多面的機能の保全を目的に、地域住民と都市住民等の協働によるボランティア活動を推進するとともに、若い世代に農地保全活動等を通じて自然豊かな農村の理解促進を図る。

項目	事業内容
1. 広報活動の実施	夢大地応援団ボランティア活動の情報収集と発信 ・情報誌発行：2回
2. ボランティア活動実施支援	ボランティア活動を実施する地域の活動支援を行う。 ・推進地区：2地区　・継続地区：8区
3. カレッジ活動の開催	若い世代を対象にした夢大地応援団カレッジ活動を開催する。 ・年3回
4. 地域と都市住民を結ぶメールマガジンの作成・発信	夢大地応援団ボランティア活動の募集や結果報告等の情報をメールマガジンで発信し、地域と都市住民の理解促進を図る。

VI 食と農の理解促進事業（公2事業）

【予算額：9,312千円】

人が生きる上で最も重要な「食」と、これを支える農業の大切さを一人でも多くの県民に理解してもらうことを目的に事業に取り組む。

1 とちぎアグリプラザ管理運営事業 (公2・1 自主事業)

県民の食料・農業・農村に対する理解を深め、これらの振興を図るため、その拠点となるとちぎアグリプラザを適切に管理・運営するとともに、県民が食と農の理解を促進するための事業を実施する。

事業名	事業内容
とちぎアグリプラザ管理運営事業	<ul style="list-style-type: none">① 施設の管理運営（地上3階、延床面積1,804.72m²）② 食と農に関する相談・講座開催・情報提供③ 食と農の理解促進に資する事業

2 食と農の理解促進事業 (公2・2 受託事業)

県民が食と農に関する興味や関心を高め、次の世代が望ましい食生活を送れるようにするために、食育の実践に資する事業を実施する。また、とちぎの豊かな食と農に対する理解を促進させ、これを多くの県民に広めるための事業を実施する。

事業名	事業内容
1. 「とちぎ食育応援団」活用促進事業	<p>食育を継続的に推進するため未就学児とその保護者を対象とした「とちぎっ子食育出前講座」を引き続き開催するほか、応援団員の資質向上を目的とした研修会の開催と情報発信を行う。</p> <p>(1) とちぎっ子食育出前講座等応援団活動 (保育所・幼稚園等への応援団の派遣) 28年度目標：講座開催回数 40回 派遣応援団員数 100名（講師もしくは講師及び補助者各1名） (27年度実績)：講座開催回数 35回 派遣応援団員数 76名（講師もしくは講師及び補助者各1名）</p> <p>(2) 食育応援団の一般的な活動 (食と農のふれあいフェア、アグリプラザまつり等派遣) 28年度目標：派遣者数 35名 (27年度実績：派遣者数 35名)</p> <p>(3) 活動力アップ研修会の開催 (食育活動における資質向上のための研修会) 28年度目標：研修会参加者数 50名 (27年度実績：研修会参加者数 33名)</p> <p>(4) 活動PR情報誌の作成・配布 (応援団への情報提供) 28年度目標：2回発行 (27年度実績：2回発行)</p> <p>(5) 食育応援団員の募集・登録・名簿作成 28年度目標：登録応援団員数 450名 (27年度実績 438名)</p> <p>(6) 企業応援団員の活用促進（新たな連携強化に向けた検討など）</p>

2. 食と農の理解促進プロモーション事業	<p>県民に食と農の理解を広げるための実践プログラム「つなごう！食と農の実践講座」を開催し、この受講者を「とちぎ食育応援団」へ登録誘導することにより、食育推進活動に資する取組を実施する。</p> <p>また、とちぎアグリプラザの周知と併せ、とちぎの食や農に関する各種情報提供を通じ食と農の理解促進を図るためのイベントを開催する。</p> <p>(1) 「つなごう！食と農実践講座」（「食と農の伝道者」としての人材育成に資する講座 目標：8回 及び時事講座 目標：2回）の開催 (27年度実績 実践講座 51名) 時事講座(クリスマスケーキつくり)60組 (応募数 350)</p> <p>(2) とちぎアグリプラザまつりの開催 入居団体と連携して、地域住民に対し、アグリプラザの周知を図るとともに、食と農に関する情報を提供する。(27年度来場者数 約1,500名(雨天))</p>
----------------------	---

VII とちぎ花センター管理運営等事業（公2事業）

【予算額：153,752千円】

本県における花の振興と、花とのふれあいによる心豊かな人づくりを目的に、県が栃木市に設置した「とちぎ花センター」の管理運営業務を実施する。

また、県産の花の情報発信と産地や生産者のPR、園芸知識や花の普及・消費拡大を図るとともに、地域活性化の拠点施設として近隣施設と連携しながら県民等との交流を推進する。

1 施設管理事業 (公2・3 指定管理事業)

- (1) 管理建物 鑑賞大温室・展示温室他15棟 6,392 m²
- (2) 敷地 花壇等 3.1 ha

項目	平成28年度目標人数
入園者数	360,000人 (鑑賞大温室有料入館者数 22,000人)

2 花の生産振興事業 (公2・3 指定管理事業)

展示温室で、県産花きを用いた飾花を提案し、家庭でできる花の利用を促進する。

また、本県で開発された「るりおとめ」や「きらきら星」の展示、生産者組織と連携した企画展示、消費者と生産者の交流イベントなどの開催、県産花きの情報発信やPRなどを行う。

3 花の普及促進事業 (公2・3 指定管理事業)

県産花きの普及と来園者に植物をとおした「癒し」を提供するため企画展やイベントを開催する。

また、花の持つ多様な機能をいかし、植物を通した体験型教育である花育活動や、高齢者や障害者の方が楽しめる園芸福祉活動に取り組む。

主な項目	事業内容
1. 企画展の開催	<p>鑑賞大温室第1企画展示室において次のとおり開催する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①あじさい展 (H28.5.10~6.5) ②薬になる植物展 (H28.6.7~7.3) ③ブラジルの植物展 (H28.7.5~7.24) ④食虫植物展 (H28.7.26~8.28) ⑤秋のガーデニング展 (H28.9.3~10.2) ⑥世界のスパイス展 (H28.10.4~10.30) ⑦ハンギングバスケット作品展 (H28.11.1~11.20) ⑧クリスマスを彩る花たち (H28.11.22~12.25) ⑨春の花と縁起の良い植物展 (H29.1.2~2.5) ⑩春のフラワーアレンジメント展 (H29.2.11~2.26) ⑪洋ラン展 (H28.2.28~5.7)
2. 花壇の植栽	大花壇は、年間3回のデザイン植栽を行う。また、少量多品種のバラ園を充実させるとともに、フラワータワーや中小花壇に季節の花を植栽する。

3. 体験教室の開催	寄せ植えづくりや家庭の日の親子体験教室など、子供から大人まで楽しめる体験型の教室を開催する。また、バラの管理やガーデニング講座など7コースからなる「とちはなカレッジ」を開催し、園芸の普及につとめる。
4. 花育の取組	生産温室を活用して、植物の植え付けから収穫まで体験する花育講座を開催する。また、栃木市内の小学生をとちはなちゃんドーム（鑑賞大温室）に招待し、植物に親しむきっかけをつくる。
5. イベントの開催	季節に合せて、各種イベントを開催する。 ①春のフラワーフェスティバル（5月） ②ローズフェスタ（5月～6月） ③ほたる祭り（6月） ④ホラーガーデン（8月） ⑤ワクワク体験フェア（9月） ⑥秋のフラワーフェスティバル（10月） ⑦クリスマスファンタジー（12月） ⑧お正月スペシャルウイーク（1月） ⑨スプリングカーニバル（3月）
6. 園芸福祉活動の取組	75歳以上の方を、通年「とちはなちゃんドーム」に無料ご招待し、植物による癒しを提供する。また、障害者用のコンテナガーデンへの植栽や施設への出前講座の開催など、高齢者や障害者の方々に植物と接する機会を提供する。

4 受託事業 (公2・3 指定管理事業)

花の普及を図るためにイベント飾花、県産花きPR展示、講師派遣など外部からの委託事業を受託する。

VIII なかがわ水遊園管理運営等事業（公2事業）

【予算額：419,090千円】

那珂川の豊かな水と緑に親しみ、水生生物とふれあう場を提供することにより、その沿川地域の自然と文化についての県民の理解を深めるとともに、都市と農村との交流の促進を図ることを目的に、県が大田原市に設置した「栃木県なかがわ水遊園」の管理運営業務を実施する。

また、開園15周年記念事業として年間を通じて15のお祭りイベントを開催する「水遊園15祭」の他、那珂川の豊かな自然や生物、産業や文化など多彩な地域資源を活用し、地域活性化につなげる包括的な取組「プロジェクト那珂川」として、地元自治体や地域住民と連携し自然体験活動や河川清掃などを実施する。併せて、もう一つの柱であるアマゾン展示についても現地調査等により充実発展させると共に、独創的な体験講座やイベント等を開催し、利用者サービスの向上に努める。

1 施設管理事業 (公2・3 指定管理事業)

- (1) 管理建物 おもしろ魚館 (展示ゾーン及び体験交流ゾーン) 約6,000m²
- (2) 公園施設 芝生広場・お魚ふれあいステーション・水の広場・公園サービスステーション
約250,000m²

項目	平成28年度
おもしろ魚館入館者数	目標入館者数 270,000人 (有料入館者数 183,949人)

2 広報活動事業 (公2・3 指定管理事業)

水遊園の展示や体験講座、イベント情報を各メディア・行政・教育機関等に配信するほか、集客施設などでPR活動を積極的に展開し、水遊園への集客につなげる。併せて、来園者が周辺地域を周遊するよう地域情報の発信を行うことで地域活性化に貢献する。

3 展示活動事業 (公2・3 指定管理事業)

展示テーマである「那珂川から世界の川、そしてあこがれの海へ」をさらに発展させ、栃木県を代表する清流「那珂川」と世界を代表する「アマゾン川」の二つの川に注目した他に類のない唯一の展示を目指す。また、生物と水辺環境についてより理解と興味が深まるよう現地調査などを踏まえ、これまで同様の生物展示を継続しつつ、両生類・爬虫類・ほ乳類等の魚類以外の水生生物の展示にも力を入れ、多様な視点とニーズに対応できる展示を行う。

項目	事業内容
1. 常設展示	那珂川水系の魚や水産試験場の研究成果など地域の水生生物への理解と関心を深める展示と、アマゾン、グレートバリアリーフの魚など生物多様性のすばらしさを表現する展示などあわせて約300種2万点の展示生物を飼育管理する。
2. 企画展	春：観賞魚コレクション H28.3.1～5.8 15周年記念：アマゾン展（仮称） H28.7.12～10.30 冬：ライトアクリアリオ（仮称） H28.11.25～H29.1.22 春：外来生物展（仮称） H29.3.7～5.7
3. 解説プログラム	おもしろ魚教室：子どもたちに生き物への興味をもたせる解説プログラム スポットガイド：解説しながらアマゾンの魚たちへ給餌するプログラム バックヤードツアー：水族館の裏側をガイドするプログラム
4. イベント	春・初夏・夏・秋・冬・初春の6シーズン毎に季節感のある各種イベントを開催する。 来園者サービスの一環として夜8時までの開園時間を延長しナイトビューを秋・冬の2回開催する。

4 体験交流事業 (公2・3 指定管理事業)

農村の文化や様々な地域資源などについて利用者が楽しみながら学ぶことを目的に各種体験講座を開催する。水族館と融合した体験講座や都市と農村の交流を促進する企画など「見て、触れて、食べて、感じて」を実現できる全国でもユニークな体験型施設を目指す。

項目	事業内容
1. おさかな研究室	魚の観察や解剖、標本づくり、水生昆虫採集など魚や水生生物等の観察実験講座
2. 味わい工房	田舎まんじゅう、ソーセージ、ピザ、地粉パンなど地域の農産物を活用した調理加工講座
3. 創作工房	竹細工、木工細工、和紙細工、まゆクラフトなど地域の伝統工芸等講座
4. 釣り池	マス釣り(12~5月)及び五目釣り(通年)、ザリガニ釣り(夏季)を常駐インストラクターの指導で初心者でも安心して楽しめる釣り体験
5. その他の事業	農業体験、マス・アユのつかみどり体験、魚の3枚おろし体験など

5 地域及び教育機関等との連携事業 (公2・3 指定管理事業)

那珂川沿川地域活性化の拠点施設としての役割を担うため、地元自治体・関連施設、地域住民等と連携し、地場産業・観光の振興等地域発展を図るため、なかがわ水遊園が中心となり、地域資源の積極的な紹介や集客のための企画をとおして地域活性化につなげる。

また、学校授業のサポートや職場体験など教育機関との連携事業にも積極的に取り組む。

項目	事業内容
1. 水遊園15祭	開園15周年にあたり、以下に挙げる祭り等のほか15の記念イベントを開催する。
2. 那珂川大感謝祭	H28.9.11開催。地域の商工観光団体や那珂川あゆ街道など食の街道関連団体の出店や水産試験場の公開講座など周辺施設の紹介を行う。
3. 15周年記念祭	7.15の開園記念日にあたり県内のゆるキャラによるグリーティングや連携動物園・水族館によるふれあい動物園などを開催する。
4. クラフトフェス	地域の工芸作家やカフェなどの出店を誘致したワークショッピングマルシェを開催する。
5. サイクルフェスティバル	自転車を通じて那珂川流域の魅力を地域自治体及び住民とともに発信する企画として「第3回なかがわ里山ポタリング」を開催する。
6. プロジェクト那珂川	那珂川での自然体験活動や清掃活動などを関連団体とともに開催する。
7. 出張授業	地元の小学校等へゲストティーチャーとして赴き、ミヤコタナゴやイトヨなど地域にすむ水生生物に関する授業を行う。
8. 新商品開発事業	那珂川のアユなど地域の食材のほか、ピラルクーなどアマゾン食材を活用した新商品を開発する。
9. 調査研究活動	ミヤコタナゴ再導入、イトヨ生息調査等を地域団体等とともにを行う。

収益事業

1. 物品販売事業（収1事業）

とちぎ花センター及びなかがわ水遊園で、関連商品や飲食物の販売を行い、来園者に対しサービスの提供に努める。

2. 管理受託事業（収2事業）

原子力災害により影響を受けた牧草地において、牧場機能の再生を図るため、施設の適正な管理を行い牧場が持つ多面的機能と畜産振興に係る整備を受託する。また、畜産競争力強化整備事業（畜産クラスター事業）において、施設整備に係る設計・施工監理業務委託に対応できるよう関係機関と連絡を密にし、情報の早期収集に務める。

その他事業

1. 貸付資金回収事業（他1事業）

「青年等の就農促進のための資金の貸付け等に関する特別措置法」（平成26年4月1日廃止）に基づき、認定就農者に対して貸付けた資金の回収業務と、貸付金の財源とするために栃木県から借り入れた借入金を償還する業務を行う。